

中国語・韓国語講座に留学生がやってきた



自己紹介 中国語

11月12日(月)、中国語・韓国語の授業に、※メロス言語学院の中国人2名、韓国人6名の留学生が訪れ、それぞれの授業に参加し、自己紹介の仕方、数の数え方などを、ヨイ・ピン先生(中国語)、水谷先生(韓国語)の指導の下、一緒に勉強しました。

生徒5～6名に一人の割合でネイティブと触れることができ、生徒は今まで習った言葉が通じとてもうれしそうでした。

放課後会議室に場所を移して、来年度中国語・韓国語を選択する2年生を中心に交流会を持ちました。授業と同様に生徒5～6人に一人の割合で、留学生と様々な話題にみんな笑顔で話が盛り上がりました。留学生のなかには、3月に高校を卒業、4月に来日し、7か月で日常生活に困らないレベルまで、日本語が話せるようになっている学生もいて、毎日良く勉強している様子が窺えました。

その後、本校の吹奏楽部の演奏が聴きたいという要望が有り、急遽顧問の豊田先生にお願いしたところ、生徒ともども快く引き受けてくださり、演奏を聴きました。本校の誇る吹奏楽部の演奏に、全員が感動しました。後日、来校してくださった学生から、吹奏楽部へのお礼として、色紙をいただきました。



グループに分かれて 韓国語



笑顔で交流



放課後の交流会



感動の吹奏楽部の演奏

日本語を習って間もない学生が「鳥肌がたった」と表現するのを聞いて私たちが鳥肌が立ちました。英語を習って何年もたつ皆さん、英語で「鳥肌が立つ」はどのように表現しますか。

注 『新明解国語辞典』第7版(三省堂)では「慣用句『鳥肌が立つ』は、本来の寒さや恐ろしさでぞっとする意から転じて、ひどく感激する意に用いることがある」とされている。

※メロス言語学院：日本の大学へ進学を目指す海外の学生のために日本語を教える学校